

## 2019年度 高槻中学校・高槻高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

#### ■めざす学校像

次代を担う人物を確かに育成する最優の進学校を目指す

#### ■教育方針

確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と、変化する社会に積極的に対応し得る能力・意欲・創造性を養う

### 2 中期的目標

【中期的目標】、【課題を踏まえた実践計画】

#### ① SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)としての教育活動およびコース制の充実

指定2期目初年度のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)は「データサイエンスの素養を持ち先端学力知とグローバルマインドセットを備えた生命科学系リーダーの育成」を、指定4年目のSGH(スーパーグローバルハイスクール)は「医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成」を目指し、本校の教育内容の特色として、より高度で質の高い教育活動の展開を図る。また、コース制は導入6年目となり、中3以降の学年が、GS(グローバルサイエンス)、GA(グローバルアドバンス)、GL(グローバルリーダー)のカリキュラムに則った学修を進めている。今後はよりコースの特性に応じた教育プログラムの充実を図っていく。

#### ② School Mission「Developing Future Leaders With A Global Mindset」の実現を図る教育活動の展開

本校のミッション実現に向け、卓越した語学力や国際的な視野を持って、世界を舞台に活躍できる次世代のリーダーを育成するための教育活動をより充実させる。

#### ③ 高大連携の教育プログラムの充実

本校は、大阪医科薬科大学との法人統合、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)の指定というメリットを活かし、より多様で質の高い高大連携の教育活動、教育プログラムの充実を図っていく。

#### ④ 「探究型」学習の充実と学力の三要素の育成

本校は、特色教育の一展開として「探究型」学習に取り組んでいる。思考力を重視した問題解決的な学びは、中教審の答申、それを踏まえた2020年の大学入試改革、次期学習指導要領においてもキーワードとなっている。そこでは、新しい時代に求められる資質・能力の三つの柱として[知識・技能]、[思考力・判断力・表現力]、[学びに向かう力・メタ認知]が挙げられている。自己評価では、深い学びが実現できているという項目の自己評価が82%となっており、各教科で、知識の習得(インプット)だけではなく、考察と仮説の構築、その検証を繰り返す体系的な学びを促し、それを運用(アウトプット)する力を体得させるような学習を、本校の教育活動全体を通じて積極的に取り入れている。また、幅広い学びの成果や活動を記録する学修ポートフォリオ『My Career Notebook』を活用し、生徒自身が振り返りや学習計画の改善、キャリアデザインできるよう指導している。さらに、2020年以降に大学入試を迎える高校2年生以下の学年では年度末に学修インタビューを行い、生徒自身が教育活動全般を振り返って省察しプレゼンテーションすることにより、主体的に学ぶ力や意欲の伸長を図っていく。

#### ⑤ 高い学力が確かに身につく指導と成果の検証

進学実績の飛躍的な向上を図るため、各学年が年間計画で取り組む学力向上のための取り組みの実施状況とその成果について、節目節目で検証を行い、学校全体として実効性のある改善策を実施する。また、基礎・基本を徹底し、十分な理解度や到達度をもった上で、知識活用型の発展的な学習に取り組めるよう、特に中学段階における学習指導を徹底する。さらに、生徒の潜在能力を発揮させ、学力を十分に伸ばせるよう全校をあげて学力向上に関する具体的な取り組みを実践していく。

#### ⑥ 徳育教育の充実

生徒が生命を大切に思う気持ちや社会のルールを身につけることができるよう、年間指導計画に基づき道德教育を継続的に行っている。共学3年目を迎え、服装、挨拶、清掃活動など生活の基本を大切に指導を徹底しながら、徳育教育の充実を図っていききたい。清掃活動が行き届いているという項目の評価は以前と比較すると改善されたが(項目24がH28年度48%→H29年度63%→H30年度62%)、今年度も継続して取り組んでいきたい。平和学習を目的とした中学修学旅行、ボランティア活動の奨励、道德教育の充実、人権教育の推進等とともに、学校の様々な教育活動を通して、心豊かな人間を育成していききたい。

#### ⑦ 社会貢献活動としてのボランティアの推進

平成28年度よりボランティア活動支援センターを校務分掌の中に位置づけ、ボランティア活動を推進している。本校のミッション実現のため、多様で豊かな人間関係にふれる体験を教育活動の中に位置づけ、リーダーが持つべき他者を思いやる心、奉仕の心、課題解決力を育みたい。社会貢献活動を中心に行うボランティア委員会と、生徒募集イベントにおいてボランティア活動を行っている「T-BEST」の活動が、世界や人類の福祉に貢献できる人物の育成に繋がることを期待している。

#### ⑧ 指導力および資質の向上を図る教員研修の実施

本校の特色ある教育の実践には、教員の指導力が必要不可欠である。教科指導や教育的課題についての学校内外での研修をより充実させ、日常的なOJTの活性化を図っていききたい。大学入試改革、学習指導要領の改定を目前にひかえ、今年度も深い学びを促すアクティブラーニングを推進していくための研修を実施し、教育活動の深化、連関性、協働性を高める取り組みを実践していく。

#### ⑨ ICT利活用教育の推進

今後ますます進化を遂げるであろう高度情報化社会を生き抜くために必要なICTスキルを養うため、メディアリテラシーを含めたICT教育を充実させていく。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [2019 年実施分]	学校協議会からの意見
<p>【総論】</p> <p>〔保護者〕</p> <p>保護者のアンケート結果は、昨年度（2018年度）は前年度（2017年度）の結果に対して全体的に好転し、2019年度は前年度に対して、全体的に横ばいの評価であった。高校は全体的に昨年度を若干ではあるが上回る評価を受けた。教育方針をはじめ、教育活動について一定の評価を頂いている。しかし、中学では「学校でのクラブ活動は活発だと思いますか」（57%→52%）と低く、取り組みについて改善するとともに、クラブ活動の位置づけに対して、また教育全体に対して更なるご理解を頂けるよう取り組む必要を感じる。</p> <p>〔生徒〕</p> <p>高校生の結果は、30項目中9項目が+10の改善傾向にあった。ただし、3年生の評価が全体的に低かった。（下記は高校生全体の昨年比+10の項目と-10の項目）</p> <p>【マイナス評価】</p> <p><input type="checkbox"/> 本校の校訓や教育目標を知っていますか（全体55%で-19）</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている（全体55%で-11）</p> <p><input type="checkbox"/> 授業と補習や講習などで進路実績に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている（全体64%で-14）</p> <p>【プラス評価】</p> <p><input type="checkbox"/> 生活指導は適切（全体74%で+11）</p> <p><input type="checkbox"/> 個別面談など生徒の話を聞く機会を設けている（全体85%で+16）</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒が授業内容でわからないことがあれば、いつでも質問できるような雰囲気がある（全体85%で+13）</p> <p><input type="checkbox"/> ホームルーム活動は活発で、クラス全体が関わっている（全体82%で+16）</p> <p><input type="checkbox"/> 社会のルールや社会性が身につくような指導を十分行っている（全体85%で+17）</p> <p><input type="checkbox"/> 生活指導の方針に共感できる（全体82%で+25）</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒の活動を活性化するような工夫をしている（全体78%で+21）</p> <p><input type="checkbox"/> 進路指導について、ガイダンス機能が充実している（全体82%で+21）</p> <p><input type="checkbox"/> 儀礼的な行事を大切にしている（全体74%で+12）</p> <p>中学生の結果は、30項目中7項目が+10の改善傾向、6項目が一傾向にあった。（下記は中学生全体の昨年比+10の項目と-10の項目）</p> <p>【マイナス評価】</p> <p><input type="checkbox"/> 本校の校訓や教育目標を知っていますか（全体60%で-22）</p> <p><input type="checkbox"/> 学校は充実している（全体75%で-15）</p> <p><input type="checkbox"/> 授業は理解できる（全体77%で-12）</p> <p><input type="checkbox"/> 社会のルールや社会性が身につくような指導を十分行っている（全体49%で-31）</p> <p><input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われている（全体66%で-16）</p> <p><input type="checkbox"/> 教育活動（行事や課外活動を含む）を通して、多様な経験・体験ができる（全体77%-10）</p> <p>【プラス評価】</p> <p><input type="checkbox"/> 生活指導は適切（全体90%で+20）</p> <p><input type="checkbox"/> 個別面談など生徒の話を聞く機会を設けている（全体90%で+14）</p> <p><input type="checkbox"/> ホームルーム活動は活発で、クラス全体が関わっていると思うか（全体93%で+17）</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒の心身の悩みに対して適切な対応が行われていると思うか（全体77%で+10）</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒会活動などを通して、自主・自律の精神を養う工夫をしている（全体92%で+12）</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒の活動を活性化するような工夫をしている（全体83%で+14）</p> <p><input type="checkbox"/> 学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている（全体89%で+15）</p> <p>〔教員の評価より〕（+10以上の改善項目と70%以下も項目）</p> <p>【改善項目】</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒会活動において、生徒が主体的に活動できている（71%）</p> <p><input type="checkbox"/> 清掃指導に充分取り組んでいる（72%）</p> <p><input type="checkbox"/> 個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している（80%）</p> <p><input type="checkbox"/> 教育活動に必要な情報を積極的に収集し、生徒・保護者への周知に努めている（88%）</p> <p>【70%以下の項目】</p> <p><input type="checkbox"/> PDCAサイクルのせて各学年の教育計画が作成されている（70%）</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒が自らの適性に合ったキャリアデザイン（学び方・働き方・生き方の設計）ができる</p>	<p>2019年度に実施された学校評価アンケート結果について、以下、アンケート対象者毎に意見を申し述べます。なお、本アンケートは2019年度に実施されたため、学年の表記は2019年度のものであります。</p> <p>（保護者）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートにおいて、プラス評価（1+2）の割合が80%を超える項目数が28調査項目中、中学生保護者で17項目、高校生保護者で18項目であり、中学高校とも保護者の満足度は比較的高いと考えられます。特に、項目9「学校の雰囲気がよく、子供たちが生き生きとしていると思いますか」、項目24「学校の施設・設備は学習環境面においてほぼ満足できる環境にありますか」、項目26「学校では、子供に関するプライバシーが守られていますか。」について、中学生保護者・高校生保護者ともに90%以上がプラスの評価をしている点で、子供たちの学校生活環境が、ハード面でもソフト面でも整えられていると保護者が実感しているといえ、今後も維持されることを期待いたします。</li> <li>もっとも、前年度よりもプラス評価の割合が減少したものが中学生保護者において20項目もあったことは看過できないと思われます。特に、項目4「学習の内容や速度などを、懇談や学年通信やシラバスなどによってよく知ることができますか」、項目14「学校は、将来の進路について適切な指導を行っていますか」、項目18「学校でのクラブ活動は活発だと思いますか」において、プラス評価の割合の減少幅が大きく、検証すべきと思われます。項目18については、2017年から下降し続けており、昨年度においても意見が出された事項でした。今年度はさらに評価が下がり、中学2年保護者においてプラス評価の割合が40%にも満たないことから、学校協議会からの意見が反映されていないように思われます。</li> <li>高校生保護者においても、プラス評価の割合が最も低いものは、項目18「学校でのクラブ活動は活発だと思いますか」でしたが、2017年度から微動ながらプラス評価は上昇しており、67%でした。中学生保護者と高校生保護者とでこのように評価に差が出たのは、昨年度における学校協議会においても意見が出たように、中学生において共学化し、女子が入部できるクラブが少なかったことと、男女とも入部に際し抽選が行われたクラブがあり、希望するクラブに入部できなかった生徒が多数であったことが要因ではないかと思われます。後述するように、クラブ活動の意義から立ち返って、対応を検討する必要があるかと思われます。</li> </ul> <p>（中学生）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラス評価の割合が最も高いものは、項目10「ホームルーム活動は活発で、クラス全体が関わっていると思いますか。」の93%で、項目9「先生方はよく協力して日々の教育に当たっていると思いますか。」及び項目15「学校は生徒会活動などを通じて、自主・自立の精神を養う工夫をしていますか。」がいずれも92%と非常に高い割合でした。学年を問わず、多くの生徒が、生徒を主体とした学校活動に満足していることがうかがわれ、保護者としても非常に好ましいことであると考えます。</li> <li>プラス評価の割合が最も低いものは、全ての学年において、項目11「学校は社会のルールや社会性が身につくような指導を十分に行っていますか。」の49%で、前年度の80%から大幅な低下でした。項目13「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われていると思いますか。」でもプラス評価は66%にとどまり前年度から16%も低下していることにも留意が必要かと思われます。</li> </ul> <p>中学生は、協調性や自主性、責任感等、社会生活に必要な能力や、望まし人間関係を構築するために必要な態度や能力といった社会性を高めていかなければならない時期であるところ、生徒たち自身がその指導を求めているものと思われますので、積極的に検討すべきであるように思われます。</p> <p>この点、中高6年一貫教育の強みの一つとして、中学1年から高校3年までの生徒が同じ学舎で学校生活を共にしていることにより、上下の人間関係の構築を図れることが挙げられると思われます。そして、生徒たちが一番身近に上下関係を体感できるのがクラブ活動です。クラブ活動は、それだけでなく協調性や自主性、責任感等も培われる絶好の機会であることから、かかる重要な意義に着目した検討が必要かと思われます。</p> <p>（高校生）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラス評価の割合が最も高い3項目は、項目6「学校は個人懇談など生徒の話を聞く機会を設けていると思いますか」、項目7「学校は生徒が授業内容でわからないことがあれば、いつでも質問できるような雰囲気がありますか」、項目11「学校は社会のルールや社会性が身につくような指導を十分に行っていますか。」のいずれも85%でした。学年を問わず、多くの生徒が、教職員の方々の生徒たちへの寄り添いや熱心さに満足している結果であると思われ、保護者としても非常に有難いことであると考えます。</li> <li>プラス評価の割合が最も低い2項目は、項目1「本校の校訓や教育目標を知っていますか」、項目12「基本的な生活習慣やマナーを身につけられるような指導が行われていると思いますか。」の55%で、いずれも前年度から10%以上の落ち込みとなりました。ただ、項目1については、調査当時高校3年生の半数以上においてマイナス評価の割合が高かったということがありますので、今後の調査における動向如何かと思われます。</li> </ul> <p>（教職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラス評価の割合が最も高いものは、項目1「本校の校訓や教育目標を知っていますか。」の95%であり、次いで項目9「いじめなど生徒の問題行動が起きたとき組織的に対応できる体制が整っている。」及び項目30「保護者と接する機会を多く持っている。」がいずれも89%と非常に高い割合でした。教職員の方々の意識の向上が感じられるとともに、学校が一丸となっていじめ等生徒間の問題に対応できる体制が整えられていること、また、教職員の方々が保護者との連携に積極的であることの現われであると考え、非常に有難く思います。</li> <li>プラス評価が最も低いものは、項目22「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいて円滑に教育活動が行われている」の57%であり、年々わずかながらプラス評価に高まりつつあるとはいえ依然として60%以下にとどまっていることは看過できないと思われます。教職員間の相互信頼関係が構築され安定した職場環境が維持されてこそ、より良い教育活動が実践されると思われることから、組織的な連携や相談体制の構築等検討し</li> </ul>

<p>よう、各学年に応じて系統的な進路指導がなされている（70%）</p> <p>□社会のルールや社会性が身につくような教育活動や指導を継続的に行なっている（58%）</p> <p>□人権に関する歴史的、現代的な問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会の実現につながるような学習計画が計画的に行われている（68%）</p> <p>□教職員間の相互理解、信頼関係に基づいた円滑な教育活動が行われている（57%）</p> <p>□災害、事故、事件などに対して迅速かつ適切な対処ができるよう役割が明確化されている（70%）</p> <p>〔まとめ〕</p> <p>共学に移行し3年目を迎える中、アンケート結果からもこの間の教育活動に対して改善傾向と定着がみられる。しかし、項目によっては学年差が見られ、評価が低い項目がある。アンケート結果を踏まえ、改善が必要と思われる項目については真摯に受け止め、継続して教育内容の改善に取り組みたい。教育内容を積極的に情報公開し学校としての理念や指導方針について、理解を深めて頂けるようご家庭とも連携し教育活動の更なる改革に努めていきたい。</p>	<p>ていただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度からプラス評価が10%以上低下したのが、項目23「災害、事故、事件などに対して迅速かつ適切な対応ができるよう、役割が明確化されている。」でした。災害や事故、事件は、予期せず突然到来するものであることから事前の対応策が必須であるところ、教職員がこの点に関してマイナス評価に転じている点は留意しなければならぬように思われます。また、当該項目に該当しないかもしれませんが、学校内で事故等が発生した場合、教職員の方々については労災対応のみであるとお聞きしました。もし、事実であるならば、学校という生徒が多数集う学校現場は事故等が発生しやすい環境であることにも鑑み、損害保険等を契約する等、教職員の方々安心して教育活動に専念できるよう整えることもご検討頂ければと思います。</li> </ul> <p>＜学校評価アンケートの項目について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の学校協議会からの意見において、中期的目標に対応する項目が十分ではないような印象を受けたとして、中期的目標の達成状況の検証を目的としたアンケート項目の設定をご検討願うというのがありました。改めてご検討頂きますようお願いいたします。</li> <li>また、中期的目標の第1項目の「SSH、SGHとしての教育活動及びコース制の充実」に関連し、各コース内容に特徴があることを踏まえ、アンケート項目の設定と、コース別での分析・評価が必要ではないかとの意見も前年度の学校協議会から出ておりました。この点についても、改めてご検討をお願いいたします。</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年10月3日開催の学校評価委員会の際、進学校のスタンスを維持するも、家庭連絡等に時間を割かれて本務がおろそかになる心配もあるとして、クラブ活動や安全管理等については外部委託を利用するなどして、優秀な教員の負担を軽減し本務に専念しやすい環境整備が必要ではないかとの意見がありました。クラブ活動や安全管理等が外部委託の利用によりより充実し、他方で、教員が教育活動に専念できるのであれば、生徒及び教員いずれにとっても安全で充実した学校環境となりうることから、是非とも、外部委託の利用について積極的にご検討頂きたく存じます。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
SSH、SGHの教育活動 およびコース制の充実	<p>(1) SSHの教育活動の充実</p> <p>(2) SGHの教育活動の充実</p> <p>(3) コース制に伴う教育活動の充実</p> <p>(4) 中学の教育内容の充実と進路意識の向上</p> <p>(5) コース選択に関するガイダンスの実施</p>	<p>(1) 課題研究やその成果の発表、SSセミナー、サイエンスキャンプ、科学技術コンテストへの参加</p> <p>(2) 課題研究やその成果の発表、グローバルセミナー、Stanford 大学オンラインコース、海外フィールドワーク（パラオ）</p> <p>(3) 探究活動の充実、コース別研修の企画・実施</p> <p>(4) ア. 基礎基本の修得と定着の徹底 イ. キャリアデザイン進路講演会「ようこそ先輩」（中1、中2）、選択式進路講演会（中3）</p> <p>(5) ア. コース説明会（生徒対象、保護者対象） イ. 中学の保護者対象学年集会において説明</p>	<p>(1・2) 各教育プログラムの実施後の生徒アンケート</p> <p>(3) 高1、高2生の項目2が80%、項目4が75%</p> <p>(2018年度項目2が高1は82%、高2は73%、項目4が高1は84%、高2は61%)</p> <p>(4) ア. 中学生の項目4の肯定的評価が90%（H30年度89%） イ. 中学生の項目20の肯定的評価が80%（2018年度74%）</p> <p>(5) ア. 中1・中2で各1回 イ. 中学保護者の項目1の肯定的評価が90%（2018年度92%）</p>	<p>(1) 科学技術、理科、数学に関する能力やセンスの向上に役立つ。科学技術・理科・数学の面白そうな取り組みに参加できる。課題研究、理数系の学習に対する意欲が更に向上する。理系学部進学に役立つ。といった面で肯定的に捉えていた。(○)</p> <p>(2) 国際人として必要な教養が深まった。地球環境の多様化に対する理解、国際共通語としての英語が身についた。プレゼンテーションに自信が持てるようになった、といった項目で生徒の自己評価が高かった。(○)</p> <p>(3) 項目2の高1が84%、高2が81%であった。項目4の昨年の平均が73%だったのに対し、高181%、高2が81%、全体の平均も75%に上昇。課題研究やコースの特長を活かしたプログラムの充実が徐々に浸透してきているが更に生徒の満足度を上げていきたい。(○)</p> <p>(4) ア. 中学生の項目4「授業が理解できている」の肯定的評価が、77%と目標に達することができなかった。(×) イ. 中学生の項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の評価が昨年度74%だったが、89%と大幅に改善することができた。学習指導部・進路指導部の指導を一層充実させていきたい。(○) キャリアデザイン進路講演会はコロナ感染症対策により中1では実施できなかった。</p> <p>(5) ア. 中1・中2で各一回計画通り実施した(○) イ. 項目1「学校は教育方針をわかりやすく伝えていく」の肯定的評価が91%と90%を上回ることができた。学年集会などを通して学校の方針をより理解していただくよう努めていきたい。(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">②School Mission の実現を図る教育活動の展開</p>	<p>「Global Mindset」を持った次世代のリーダーを養うための教育活動の実施</p>	<p>ア. 次世代リーダー養成プログラム(英国研修、米国研修)の実施とプログラムの充実                  イ. ターム留学(カナダ、アメリカに 12 月末～3月上旬まで留学)                  ウ. 特色教育としての英語教育の充実、使える英語を身につけるための英会話の授業（オンライン英会話含む）                  エ. 英語 4 技能を測定する GTEC 受検                  オ. 言語活動の充実                  カ. International Young Leaders Advancement Programme (GAコース)                  キ. コミュニケーション研修(中1)                  ク. グローバルセミナー                  ケ. 台湾研修(GAコース)                  コ. 海外の中等教育学校(延平高級中学:台湾、台中第一高級中学、ミンゼンティエー高校: パラオ)との提携と交流行事                  サ. SSサイエンスツアー(GSコース)                  (タイ王国ナワミン第2高校訪問、現地高校生とのガジャマンガラ工科大学での実習)                  シ. 海外フィールドワーク(GAコース: パラオ)                  ス. GLコースのキャリア教育の企画                  セ. 次代を担う人物に求められる資質の教育活動を通しての具現化</p>	<p>・各プログラムの実施                  ・自己評価において項目 15「探究的な教育活動が行われている」の肯定的評価が 70%                  (2018 年度 67%)</p>	<p>ア・イ. 英国研修 40 名、米国研修 44 名、ターム留学 20 名の参加があった。充実したプログラムで実施することができた。(○)                  ウ. 中学では英語を週 8 時間配当し、内 2 時間は英会話(中3ではオンライン英会話)、1 時間は英語多読を実施した。(○)                  エ. オ. キ. クは、計画通り実施した。有意義な研修が行えた。カ. ケ. コのうち延平高級中学との交流は、コロナ感染症対策により実施できなかった(△)                  コ. 研修旅行において、数年にわたって継続的に訪問している現地の高校との交流が深まっている。(○)                  サ. 実施に至らなかった。                  シ. パラオでフィールドワークを実施。現地の高校や行政機関、集落を訪問し調査を行なった。(○)                  ス. 東京で研修を行ない、松下政経塾、地元国会議員、東京在住のOBの協力を得て、キャリア意識を高める研修ができた。(○)                  セ. 学習面では資質・能力の育成を明確にすべく各教科で長期的なルーブリックを作成している。特別活動・学校行事などと関連させ、「身につけたい 10 の資質」を伸ばさせたい。(○)                  ・自己評価において項目 15 の評価が 67%→73%と上昇した。(○)                  探究的な教育活動の充実をこれからも図りたい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">③高大連携の教育プログラムの充実</p>	<p>高大連携の教育プログラムの開発</p>	<p>ア. 大阪医科大学…SSH事業への支援、SGH事業への支援、基礎医学講座、医学部実習(メディカルサイエンストレーニング)、最先端医学教室                  イ. 大阪薬科大学…サマーサイエンスプログラム、基礎薬学講座                  ウ. 京都大学…SSH、SGHの活動における連携                  エ. 大阪大学…SSH、SGHの活動における連携、公開講座への参加(高2)、グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)との共同研究                  オ. 大阪工業大学…SSHの活動における連携                  カ. 東京大学…SSH事業における研究室との連携                  キ. 大阪市立大学…博士課程の学生による毎週の課題研究                  ク. 京都工芸繊維大学…課題研究指導、タイサイエンスツアー、タイ高校との研究協力                  ケ. SSH事業での大学研究室訪問                  コ. GAコースにおける海外大学との交流プログラム                  a) スタンフォード大学国際異文化教育プログラム                  b) ケンブリッジ大学学生とのリーダーシップ研修                  c) 台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修                  セ. GSコースにおける海外大学との交流プログラム                  a) 海外サイエンスツアーにおけるガジャマンガラ工科大学での研修                  b) 台湾研修における国立交通大学、台北医学大学での研修</p>	<p>・各連携事業の実施                  ・高1、高2生の項目 22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が 75%。                  (2018 年度高校生 76%)</p>	<p>・大阪医科大学、大阪薬科大学との高大連携プログラムをより充実したかたちで実施できた。(◎)                  ・他大学との連携プログラムについても概ね計画通り実施した。(○)                  ・スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと連携したスタンフォード e-takatsuki、台湾研修における国立台湾大学、台北医学大学での研修を計画通り実施できた。(○)                  ・GSコースの台湾研修において国立交通大学、台北医学大学での研修を実施した。現地中等学校との交流は充実したものとなった。(○)                  ・GLコースに於いて、立命館大経営学部との連携事業「アントレプレナー講座」を開講し、38名が受講した。(○)                  ・項目 22「学校の教育活動を通して多様な経験・体験ができていていると思う」の肯定的評価が高1、73%、高2、81%と生徒の満足度が高かった。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);">④「探究型学習の充実と資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>(1) 高校生の「探究型」学習の充実と中学生段階での素地作り                  (2) 資質・能力の三つの柱の育成</p>	<p>ア. GSコースにおけるSS課題研究                  イ. GAコースにおけるグローバル課題研究                  ウ. GLコースにおけるクリティカルシンキング                  エ. 中学卒業論文                  オ. 中1総合学習で行う学びのリテラシー                  カ. 中2総合学習で行う課題解決型学習                  キ. 各教科における言語活動(プレゼンテーション、グループ発表、ディベート)の実施                  ク. 学修ポートフォリオ『My Career Notebook』の記入指導と中1、中2、高1でのe-ポートフォリオ導入                  ケ. 学修インタビュー(中学全学年、高校1年)</p>	<p>・各教育プログラムの実施                  ・自己評価において項目 6「各教科の見方・考え方を働かせながら、知識を関連づけて、考えを形成したり、解決策を考えたり、創造したりする深い学びが実現できている。」の肯定的評価が 80%                  (2018 年度 82%)</p>	<p>全ての項目を実施した。                  特に科学の甲子園ジュニアにおいて、中2、3名、中13名が大阪府代表として全校大会に出場した。科学の甲子園において、高2、6名が大阪府大会で優勝し、全国大会に出場した。(○)                  ク. セルフマネージメントプランナーや学修ポートフォリオの記入指導が充実・定着してきた。中1・中2・高1については、e-ポートフォリオに移行し、学修成果を蓄積する取り組みがなされた。(○)                  ケ. 中1から高2で学修インタビューを実施した。京都大学との共同研究により、一年の学修成果を振り返ることによって、非認知能力が向上していることが判明した。(○)                  ・自己評価項目 6 が 80%とであった。次期学習指導要領の目標に対応させながら教育活動の充実と資質能力の向上を図っていきたい。(○)</p>

<p>⑥高い学力が確かに身につく指導と成果の検証</p>	<p>到達目標 (A) 難関国立10大学合格者130名 (B) 国公立医学部+大阪医大合格者40名 (C) 中学卒業時の英語力50%が英検2級</p>	<p>(1) 進学実績の飛躍的な向上を図るための取り組み ア. 各学年が取り組む学力向上策 イ. 模試結果検討会議の実施 ウ. 各教科に担当者を2名以上おき、京大合格者を増やすための取り組みを実施する (2) 中学段階における学習指導の徹底 ア. セルフマネージメントプランナーを積極的に活用し学習習慣の向上を図る。 イ. 家庭学習時間2時間以上を徹底する。 (3) 進路指導部主導による学力向上 ア. 模試結果のフィードバックと模試ノートを使った復習。模試における目標の明確化。 (4) 学習指導部主導による学力向上 ア. 日々の学習での基礎基本の徹底 イ. 好ましい学習習慣を身につけるための指導 (5) オンライン教育の有効活用 (6) 大学入試対策放課後講座(アフタースクールアカデミック(AA)講座)の更なる充実と受験対策の強化 (7) 進路意識を向上させるキャリア教育の充実 (8) 高3三学期の受験指導の強化</p>	<p>(1) 各学年の学習到達度の状況と学力向上策の成果について、学期毎に検証する (2) 中学生の評価において項目18「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の肯定的評価が75% 項目20「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」の肯定的評価が75% <u>(2018年度項目18が75%、項目20が74%)</u> 中学卒業時の英検2級合格率50% (3)(4) 高校生の評価において項目20「学校は授業と補習や講習などで進路実現に必要な学力の充実と伸長を図るよう努めている」の肯定的評価が75%(H30年度78%) (5) 中3～高2で実施 (6) 高2高3で実施 (7) 中1、中2、高1で講演会を年1回実施 (8) 二次対策講座の組織的な開設</p>	<p>(1) 各学年で年間計画を立て学期ごとに職員会議で報告を行った。イ、ウは形態を変えて実施しているが、京都大学をはじめとする難関大学への進学実績の向上にはつながらなかった。(△) (2) 「自学自習の態度や家庭学習が定着するように指導している」の項目が81%とさらに上昇し、「学習意欲や進路意識が向上するような指導をしている」も89%と大幅に上昇し目標に達した。(◎) 中3英検合格者 2級53.1% 準2級88.2%とベンチマークをはじめ達成した。 (3)(4) 高校生の項目20が64%と下降した。好ましい学習習慣、その基礎となる生活習慣を身につけられるよう指導を継続し、学力保証と進路実現を図っていききたい。(×) (5) 主に英会話の授業で活用することができた。今後もいろいろなコンテンツを有効につかえるよう指導していききたい。(○) (6) 高1から高3を対象に実施したが、参加者は少なかった。学期中講習と両立できるよう、目的の見直しを図りたい。(△) (7) 各学年で講演会を行ない、特に中学生の項目19は71%→78→84%→88%、項目20は60%→65%→74%→89%と進路意識を向上させることができている。(◎) (8) 一昨年度より卒業式の日程を3月上旬に設定し、センター試験後の受験指導を強化した。(○)</p>
<p>⑥德育教育の充実</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にしている指導の徹底 (2) 平和学習を目的とした修学旅行の実施 (3) 道徳教育の充実 (4) 人権教育の推進</p>	<p>(1) 生活の基本を大切にしている指導の徹底 ア. 服装 イ. 挨拶 ウ. 清掃活動←毎日清掃指導+週2回の全校清掃の実施 (2) 平和学習を目的とした修学旅行(中3) (3) 中学3年間を通じた系統だった道徳教育 (4) 年間計画に基づく人権教育 ア. 每学期1回人権LHRの実施 [各学年のテーマ] 中1: 他者を理解し、尊重する心を持つ 中2: 心身に障がいのある人々の人権を考える 中3: 「沖縄」を通して、平和と人権問題について考える 高1: 民族問題、人権問題について理解を深める 高2: 在日外国人問題を中心とした人権問題 高3: 進路と人生に関する人権問題</p>	<p>(1) 生徒の評価において項目中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」の肯定的評価が75%(H30年度中学80%、高校68%) 自己評価において項目24「清掃活動が行き届いている」の肯定的評価が70% (2018年度62%) (2) 系統だった平和学習の実施 (3) 中学生の評価において項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の肯定的評価が80% (2018年度78%) (4) 高校生の評価において項目26の肯定的評価が75%(2018年度73%)</p>	<p>(1) 生徒の評価において項目中学11 高校10「学校は社会のルールや社会性を身につけるような指導を十分に行っている」が、中学75%→80%→49%、高校53%→68%→85%であった。中学生全体の数値が低いので改善できるよう取り組みたい。高校生は改善しているが、基本的なルールを全校で統一して指導し、きちんとした生活習慣が身につくよう指導していききたい。(△) 自己評価において項目24「清掃活動に充分取り組んでいる」の肯定的評価が62%→72%と上昇した。清掃指導の強化・全校清掃・大掃除などの実施が定着しつつある。(○) (2) 事前事後の研修も含め、充実した平和学習が実施できた。(○) (3) 項目26「学校は人権の大切さについて、十分に指導している」の項目は中学が77%→87%→84%であった。学校全体の道徳教育の指導計画をあらたに作成し、より系統だった指導ができるよう努めたい。(○) (4) 高校生の項目26の評価は63%→73%→68%であった。望ましい人権感覚が身につくよう継続して指導していききたい。(△)</p>
<p>⑥ボランティア活動の推進</p>	<p>ボランティア活動を行うための体制作りと活動支援および活動内容の充実</p>	<p>(1) ボランティア活動支援センターの体制確立 (2) ボランティア委員会(生徒の組織)の校外・校内における社会貢献活動 ア. 日本青年赤十字との連携 イ. 大阪医科大学との連携 ウ. インターアクトとの連携(地域連携) エ. 校内・校外企画 (大阪マラソンボランティア等) (3) 生徒募集イベントにおける「T-BEST」メンバーのボランティア活動</p>	<p>(1) 年度末報告 (2) 35名による活動 ア. 年16回 イ. 年15時間 ウ. 年5回 エ. 年5回 ・大阪マラソンには約350名の生徒が参加した。 (3) 計4回のイベントに105名が参加</p>	<p>(1) ボランティア委員会への指導・助言、外部連携機関との調整・取りつきを行なう体制が十分に確立されている。(◎) (2) ボランティア委員会に所属する中2以上の生徒35名が、随時参加し、ボランティア活動の充実を図っている。(○) ア～エについては概ね計画通り実施できた。(○) (3) 学校・入試説明会、オープンキャンパス、計4回の活動に登録者139名が分担して積極的に参加し役割を果たした。今後活躍の機会を増やしていきたい。(◎)</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">◎指導力および資質の向上を図る教員研修の実施</p>	<p>教員の指導力および資質の向上</p>	<p>(1) 研究授業の実施(年2回)  (2) アクティブラーニング研修(全教員+各教科の推進メンバーを対象としたワークショップ)  (3) 公開研究会の実施  (4) 学びあい週間の活性化(授業見学とレポート提出の義務化)  (5) 英語科教育顧問による研修  (6) 国語科教育顧問による研修  (7) 教員向け人権研修会  (8) いじめ防止教員研修会  (9) 5年経験者研修  (10) 新人研修</p>	<p>(1~2) 自己評価において項目27「他の教員の授業を見学する機会がよくある」の肯定的評価が80%  (2018年度82%)  (3) 年1回  (4) 年1回  (5) 年3回  (6) 年3回  (7) 年1回  (8) 年1回  (9) 年間を通じて4項目実施  (10) 年間を通じて全15回</p>	<p>(1~2) 自己評価の項目27「他の教員の授業を見学したり研修を受けたりする機会がよく設けられている」が67%→82%→79%であった。全員が積極的かつ自主的に研修に参加するよう促し、指導力の向上を図りたい。(○)  (3~10)の研修を概ね計画通り実施できた。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑩ICT活用教育の推進</p>	<p>BYODによるICT教育の充実</p>	<p>ICT利活用教育推進委員会を中心としたICT利活用教育の推進・環境整備・指導体制の構築を図る  ア. メディアリテラシーを含めた教育体制の構築  イ. 学習用デバイスの使用に関するルールの改正  ウ. 校内環境の整備、システムの構築  エ. ICT利活用教育推進委員会とAL推進チームとの共同による教員研修、生徒支援、広報活動</p>	<p>・推進委員、中1学年団を対象とした教員研修の実施  ・教員、生徒のICT利活用を支援する体制の確立</p>	<p>・ICT利活用の教員研修を実施し、指導体制を整えることができた。今後はより実践的な研修の機会を設け、更なる利活用を進めたい。(○)  ・メディアリテラシー教育の重要性がますます高まっていることから、デバイスの使用ルールなどについてより実効性のある指導を図っていきたい。また、ICT支援員(テックスタッフ)の協力を得ながら教員、生徒のデバイスの活用が一層広がった。(○)</p>